

#### 4 酸性雨実態調査

酸性雨は、工場、自動車などから排出された硫黄酸化物や窒素酸化物などが雨水に取り込まれて生じるおおむねpH5.6以下の雨をいいます。

県下における降水のpHは表Ⅱ-4-1及び図Ⅱ-4-1のとおりで、平成25から29年度はおおむね横ばい傾向にあります。

表Ⅱ-4-1 pHの経年変化

地点	年度				
	25	26	27	28	29
上田市	5.2 (4.6~6.0)	5.7 (5.4~6.2)	5.0 (4.6~6.6)	5.4 (5.0~5.8)	5.3 (4.9~6.0)
飯田市	5.4 (5.3~6.3)	5.1 (4.9~5.6)	5.3 (5.0~5.6)	5.4 (5.0~5.8)	5.3 (5.1~5.7)
松本市	5.3 (4.7~6.3)	5.4 (5.1~6.0)	5.3 (4.8~6.4)	5.8 (5.4~6.4)	5.4 (5.0~6.6)
白馬村	4.9 (4.6~5.5)	5.0 (4.7~5.4)	5.0 (4.6~5.5)	5.1 (4.8~5.4)	—
長野市	4.9 (4.6~5.8)	4.9 (4.7~5.3)	4.8 (4.5~5.5)	5.3 (4.7~5.6)	5.1 (4.6~5.6)
全県平均値	5.1 (4.6~6.3)	5.2 (4.7~6.2)	5.1 (4.5~6.6)	5.4 (4.7~6.4)	5.3 (4.6~6.6)

(注)・年間を通じて1ヶ月毎にろ過式採取法でpHを測定。

・調査地点の年平均値は月毎の降水量を加味した加重平均値、ただし全県平均値は各調査地点のpH値の算術平均値とした。

図Ⅱ-4-1 pHの経年変化(全県平均値)

